

イベントレポート『2012 GT耐久東海シリーズ 第4戦』

開催日 2012年10月14日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 曇り時々晴

最高気温 23.0℃(12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 27台

2012年GT耐久東海シリーズの第4戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

空は薄雲に覆われていたものの、10月の過ごしやすい気候の中でのレースとなった。

シリーズも終盤に差し掛かり、各クラスとも僅差のポイント争いが繰り広げられている。第4戦でポイントを大きく伸ばし、最終戦を優位なポジションで迎えることが出来るのはどのチームか。



■「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車のクローズドクラス)

シリーズポイント争いは、このクラス唯一の皆勤賞である#41「DXLシーワンNチームシティ」が55点で断トツの1位を走り、今回の結果次第では最終戦を待たずしてシリーズ優勝が決まる。

今回はこれに加え、初参加の#70「トータルセブンシビックGT」と、2戦目以来の参戦となる#27「ルブロスPROFITヴィッツ」がエントリーし3台での戦いとなった。

1Cクラスに該当する1000cc未満のヴィッツは、前戦より1回の義務ピットインと2回のドライバー交代をすれば良いルールとなり、排気量の大きな2Cクラスの車両よりも義務ピットイン回数が2回少なくても良いことになった。新ルール適用の下で、どのようなレース展開となるのか。



■予選

予選1番手に付けたのは、シリーズ1位の#41「DXLシーワンNチームシティ」。タイムは1'08.025をマークする。

2番手には#27「ルブロスPROFITヴィッツ」が1'12.307で続く。

初参加の#70「トータルセブンシビックGT」はコース完熟に時間を費やし、タイムは1'14.628にとどまる。



■序盤

1時間経過時点で1位に立ったのは#27「ルブロスPROFITヴィッツ」。義務ピットインの消化を後回しにして周回を稼ぎ、42LAPを走行する。

2位にはトップから1周遅れで、#41「DXLシーワンNチームシティ」が続く。3位の#70「トータルセブンシビックGT」も40LAPに付けて、中盤以降の巻き返しを狙う。

■終盤

2時間経過時点でも#27「ルブロスPROFITヴィッツ」が1位の座をキープする。周回数は69LAP。

2位の#41「DXLシーワンNチームシティ」と3位の#70「トータルセブンシビックGT」はわずか1LAP差の68LAPでトップを追いかけ、ラスト1時間での逆転勝利を狙う。

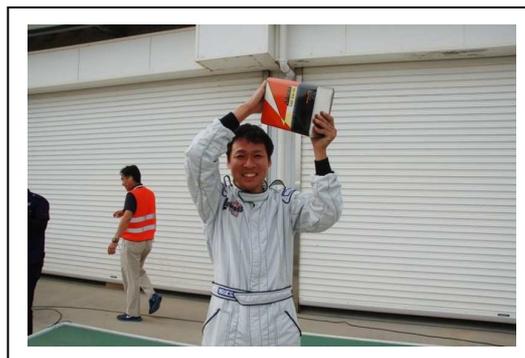
■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは98LAPを走行した#27「ルブロスPROFITヴィッツ」であった。小排気量車に与えられるハンディーを活かし、僅差ながら2位を振り切り初優勝を飾った。

1LAP差での2位には#41「DXLシーワンNチームシティ」が入った。終盤に猛然と追いつけたが、惜しくもハンディーによる周回差を埋めることは出来なかった。

3位には95LAPで#70「トータルセブンシビックGT」が続いた。初参加ながらこのクラスのベストタイムをマークしたものの、最終的にはこの順位でフィニッシュとなった。

シリーズポイント争いは最終戦を待たずして、#41「DXLシーワンNチームシティ」がシリーズ優勝を確定した。このクラスはエントリー台数が多くないとはいえ、どのチームが勝ってもおかしく無いほど実力が拮抗していたが、常に安定した成績を続けてきた結果であろう。最終戦では有終の美を飾ることが出来るであろうか。



■3Cクラス(1501cc以上のNA車と、1201cc以上の過給機付き車のクローズドクラス)

毎回多数のエントリーが集まるこのクラス。今回は今シーズン最多となる14台がエントリーし、最大の激戦区となった。

シリーズポイント争いは、#28「爆笑アクセントBスターレット」が開幕から3連勝中でシリーズ優勝に王手をかけている。今回の結果によっては、最終戦を待たずしてシリーズ優勝が決まってしまうが、ライバルたちはそれを阻止することが出来るのか。

■予選

予選1位となったのは、#28「爆笑アクセントBスターレット」。総合でも4番手となる1'02.746をマークし、シリーズ優勝に向けて好発進となる。

2番手にはシリーズ3位に付けている#830「WM CLNシビック」が1'03.124で続き、好位置から#28を追いかける。

3番手から6番手まではタイムが接近しているために、連続グリッドからのスタートとなる。3位の#106「D&Mスパイクオート106」は1'03.600、4位の#52「ヒロエンタープライズDC2」は1'03.871、5位の#11「金沢大学自動車部DXLシビック」は1'04.532、6位の#92「SW EET SIGNALパルサー」は1'04.585で大混戦の様相。

以下7位の#111「S'tecAE1ファジートレノ」が1'04.822、8位の#450「味長持ち3時間アコード」が1'05.166、9位の#75「DXL SPMシーワンEP82」が1'05.468、10位の#15「カムコ箱根仕様DXLレビン」が1'05.838と、どこを取っても僅差の予選結果となった。

■序盤

ちょうど1時間を迎えたところでレースは赤旗中断となる。この時点でのトップは、予選9位からスタートの#75「DXL SPMシーワンEP82」で46LAPを記録。しかし2位の#28「爆笑アクセントBスターレット」も同一周回に付けている。

3位の#830「WM CLNシビック」と4位の#52「ヒロエンタープライズDC2」は45LAPで並び、トップを射程圏内に捉えている。

続く5位から9位まではともに44LAPで大混戦模様。5位に#106「D&Mスパイクオート106」、6位に#450「味長持ち3時間アコード」、7位に#111「S'tecAE1ファジートレノ」、8位に#33「ボディショップ國盛WPミラージュ」、9位に#92「SWEET SIGNALパルサー」というオーダー。

■終盤

2時間経過時点では、再び#28「爆笑アクセントBスターレット」がトップに返り咲く。周回数は77周を記録する。

2位には76LAPで#75「DXL SPMシーワンEP82」が続く。

3位の#33「ボディショップ國盛WPミラージュ」、4位の#450「味長持ち3時間アコード」、5位の#111「S'tecAE1ファジートレノ」、そして6位の#830「WM CLNシビック」までが74周で並び、ラスト1時間で表彰台を目指す。

以下、7位に73LAPの#106「D&Mスパイクオート106」、8位に#52「ヒロエンタープライズDC2」、9位に72LAPの#36「剛式レーシング318is耐久号」と続くが、下位のチームの中には既に義務ピットインを消化し終えたチームもあるため、最終結果はいかに・・・。



■最終結果

序盤一時的に2位のポジションになった#28「爆笑アクセントBスターレット」ではあったが、107LAP でトップチェッカーを受けて、見事に開幕4連勝を飾った。

2位には#52「ヒロエンタープライズDC2」が105LAP で続き、嬉しい今季初表彰台となった。

3位には104LAP を走行した#75「DXL SPMシーワンEP82」が入り、こちらも今季初表彰台をGETした。

4位の#830「WM CLNシビック」と、5位の#36「剛式レーシング318 is耐久号」も3位と同じ104周を走行したが、惜しくも表彰台にはあと一步届かなかった。

6位には103LAP の #450「味長持ち3時間アコード」が入り、ぎりぎり表彰圏内を確保した。

7位の#106「D&Mスパイクアウト106」も103LAP を走行したが、表彰圏内には一步届かなかった。

シリーズポイント争いは、開幕4連勝を飾った#28「爆笑アクセントBスターレット」が80点となり、最終戦を待たずしてシリーズ優勝を確定したが、2位以下のチームは僅差での争いとなっている。最終戦の結果次第では、シリーズ順位が大きく変わって来るかもしれない。





■OPクラス(排気量区分無しのオープンクラス)

ここまで3戦を終え、優勝したのは全て1500cc以下の車両と小排気量車の検討が目立つ。その一方、今回はS13のターボ車が2台に、Z32が1台と大排気量車の参加も増え、非常にバラエティに富んで来た。

シリーズポイント争いは、42点の#110「DXLアライメント浜松シティ」を筆頭に、39点の#96「TeamKRS WM DL EG6」、36点の#56「RS正和ナフティスターレット」が続く。入賞チームの顔ぶれが毎回大きく変わるこのクラス。最終戦に向けて、ライバルを一步リードすることができるのはどのチームか。



■予選

予選1位のタイムをマークしたのは、2戦ぶりのエントリーとなる#18「T-BODYエクセルインテグラ」で1分切りの59.852を記録する。2番手には、シリーズポイントリーダーの#110「DXLアライメント浜松シティー」が1'00.504で続く。

3番手には今年初エントリーとなる#19「YADOKARIシビック」が1'02.330で入り、復活を印象付ける。

4番手には#76「ヒロエンタープライズEG6」が1'03.333で、5番手には初エントリーとなる#9「勇希 100%男前定食シビック」が1'04.672で、6番手には#96「TeamKRS WM DL EG6」が1'04.780で続く。



■序盤

1時間経過時点では、#110「DXLアライメント浜松シティー」が46LAPでトップに立つ。しかし2位の#18「T-BODYエクセルインテグラ」も同一周回に付け、トップを追走する。

3位には45LAPの#96「TeamKRS WM DL EG6」が浮上し、同じく45LAPの4位には#19「YADOKARIシビック」が続く。

5位と6位は共に44LAPで、#56「RS正和ナフティースターレット」、#9「勇希 100%男前定食シビック」と続く。

以下7位に#180「M. M. S 180SX」、8位に#123「小林板金フェアレディーZ」というオーダー。



■終盤

2時間経過時点では、上位の3台が共に76LAPで並ぶ。1位に#18「T-BODYエクセルインテグラ」、2位に#110「DXLアライメント浜松シティー」、3位に#19「YADOKARIシビック」と続く。

4位の#96「TeamKRS WM DL EG6」と5位の#56「RS正和ナフティースターレット」は74LAPの同一周回に。

また6位の#180「M. M. S 180SX」と7位の#9「勇希 100%男前定食シビック」は共に73LAPで、表彰圏内を懸けた争いも熱くなる。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、ポールスタートの#18「T-BODYエクセルインテグラ」であった。107LAPを周回し、今季初優勝となった。

2位には#110「DXLアライメント浜松シティー」が続いた。周回数は1位と同じ107LAPを記録したが、トップには約30秒及ばなかった。

終盤までトップに迫る走りを見せていた#19「YADOKARIシビック」であったが、終了間際のペナルティが響き104週の3位でフィニッシュとなった。

4位の#96「TeamKRS WM DL EG6」と5位の#56「RS正和ナフティースターレット」も3位と同じ104周を走り切ったが、僅かに及ばず表彰台を逃してしまった。

以下6位の#180「M. M. S 180SX」は101LAP、7位の#9「勇希 100%男前定食シビック」は100LAPでチェッカーとなった。



今回の結果を受けて、シリーズポイント争いは#110「DXLアライメント浜松シティー」が57点で頭一つリードするかたちになった。

これを49点で2位の#96「TeamKRS WM DL EG6」と、44点で3位の#56「RS正和ナフティースターレット」が追いかける。

最終戦の結果次第では大逆転もあり得るため、次回のチェッカーが振られるまで上位チームの戦いは終わらない。

